

「ボランティア確保課題」

室蘭・海星学院高校(香) 学院高生徒 西陵中で被災地報告

室蘭・海星学院高校(香) 実施した。

川謙二校長、232人の生徒6人が22日、登別市西陵中学校(嶋原洋二校長、185人)を訪れ、全校生徒に東日本大震災被災地でのボランティア体験を報告した。

同高校は、希望者を対象に被災地ボランティアを行っており、今年で4年目になる。下司知美さん(2年)、大谷優生さん(同)、伊藤千澁さん(1年)、下田蒼さん(同)、中村仁南さん(同)、松井玲菜さん(同)が、7月7日から5日間、岩手県釜石市で仮設住宅での傾聴ボランティアなどを

実施した。出発前に「仮設での楽しみがない」との話を聞いた生徒たちは、練習を重ねたスマップの「世界に一つだけの花」を現地で披露するなど、被災者と和やかに交流を深めた。ボランティア受け入れの窓口機関では、「平日ボランティアの確保が課題」という現実も学んだ。

下司さんは「釜石には大変な中で夢や希望を持ち頑張っている子どもたちがたくさんおり、わたしも自分の夢に向かって頑張らなければと思います」と話していた。

…(鞆子理人)



西陵中で被災地ボランティア体験を報告する海星学院の生徒たち一同中提供